総会 第1号議案

特定非営利活動法人 鎌倉広町の森市民の会

2024年度(R6)事業報告書 (第23期：2024.4.1～2025.3.31)**§ 1 2024年度活動の総括****1. 単独運営となり良かったこと****(事務局体制の強化、予算)**

単独運営となり市民の会スタッフは総勢15名（事務スタッフ12名、緑地管理スタッフ3名）となりました。共同運営時と比べ事務スタッフを5名増員することができました。

予算面では、2023年度の指定管理料収入14,309千円から、2024年度は28,684千円に倍増しました。

これらスタッフ数増加と予算倍増により、これまで着手出来ていなかった多様な新たな活動を実施することが出来ました。

(活動) 学習室、環境学習、広報

学習室をビジターセンターとして市民に開放し、ゆっくりくつろいで頂ける様になりました。近隣小中学校との環境学習の取り組みでは延べ2,400名以上の子どもたちに広町緑地の体験を提供できました。

広報面では、「ひろまちだより」をビジュアルにリニューアルしました。収穫祭では「広町緑地の保全の歴史やボランティアの活躍」をパネルで展示することができました。湘南モノレール55周年イベントに参加し、日頃のお客様とは異なる方々に広町の魅力をPRする新しい取り組みができました。

(緑地管理・施設管理)

緑地管理の面では、鎌倉市公園協会に担って頂いていた園路管理業務については、若いスタッフの活躍をはじめ事務スタッフのパトロール時の業務量増加で、きめ細やかな園路管理をすることができました。

倒木等への対応は、従来通り問題なく対応できました。

緑地管理の運営について相談し合う「環境保全委員会」では、多様な課題について意見交換を重ね、緑地管理全体の視点から必要な判断を行う場として機能しました。この委員会で検討して来た「小エリアの環境プラン検討」の成果として、「御所谷の試験区域における活動指針と年間作業確認表」を取りまとめ、運用を開始できたことは大きな成果です。

園路環境の改善として、「土系舗装の欠損部分の修繕」に取り組みました。全長約100mの区間に渡り欠損部分の補修を行い、車いすで安心してトンボ池まで行けるようになりました。大きな成果であったと言えます。

(組織運営)

運営面では、毎月スタッフ会を開催し、スタッフ間の連絡調整、研修などを行い事務局体制の強化をすることが出来ました。業務用 SNS (LINE WORKS) の活用、新たなシステム (キントーン) の運用など業務のDX化も推進することが出来ました。

2. 反省点・課題

(組織運営)

新スタッフが増え、新しい活動が増え、業務量は各段に増えました。これを、フルタイムでない事務局スタッフ体制で推進していくには、多様な困難がありました。この対策として、2025年度に向けては、業務区分の明確化、業務区分に対するリーダー制の採用、リーダーを支援する「担当理事制」を行うなど改善を試行中です。

経理部門の効率化や予算管理、工数管理も今後の課題です。

(経営基盤の安定化)

指定管理の選考委員会の総評の最初にある「団体の経営基盤を安定させること」について、運営面、財務面の一層の充実が必要な状態です。

運営面では、ボランティアや会員の増強には更に努力が必要な状態です。

財務面では、大々的な寄付の呼びかけを予定しましたが、十分には取り組めていません。募集活動は次年度の課題としました。

§ 2 事業区分毎の実績報告

1. 都市林づくりの活動を通じて、自然環境を保全する取り組みを行い、生物多様性の重要性を広く啓発する事業

(1) 里山復元事業

内容：田んぼの会、畑の会、森の会、散策路の会及び自然観察の会の里山復元事業
実績（活動日数等及び人員）：

田んぼの会	59日	延べ1470人
畑の会	172日	延べ966人
森の会	22日	延べ153人
散策路の会	20日	延べ94人
自然観察の会	213回	延べ655人

（同会は複数の班に分かれて活動しており活動は回で数える）

場所：鎌倉広町緑地全域

(2) 自然環境モニタリング事業

内容：ホタル、カエル、ホトケドジョウ等の注目種を継続的に観察し、また、水環境のデータを定期的（年4回）に計測・記録する

実績：ホタル：5月から7月の3か月間の調査で約3000頭のホタルが確認された

カエル：1月から6月の調査で82個の卵塊が確認された

ホトケドジョウ：年4回定点観測し、延べ300匹が確認された

(3) 環境保全委員会の開催

広町緑地の維持活用に係る計画等の立案などを行う組織で、毎月1回開催され、昨年度は緑地内に設けた試験区域の活動指針等を作成しました。

従事者人員：延べ84名

(4) 新規自主事業

様々な新規自主事業を検討し、試行をした中で次の2つの事業に大きな進展が見られた。

① 小中学校体験活動

環境学習の一環としての近隣小中学校の体験活動では、児童・生徒に広町緑地の自然を知り、好きになることを通じて自分なりの自然に対する考え方を育んでもらうための様々な活動を展開しました。2024年度は、小中学校5校が延べ34回訪問頂き、延べ2,400名以上の児童・生徒が広町の自然を楽しみました。来年度は、さらに新たな試みを積み重ね、「環境学習プログラム」の作成につなげていきます。

② 「ビジターセンター」の有効活用

来園者に広町緑地の自然や歴史を広く知ってもらうため、管理棟のレイアウトを見直し、従来の学習室を広げ、「ビジターセンター」として開放し、来園者の広町での学びの成果物など、様々な展示をし、関連する書籍を整備した。また、管理棟の廊下も活用し、鳥や蝶などの写真展を4回、ボタニカルアートの絵画展を1回開催した。

(5) 地域住民等との連携事業

従来、広町の多様なステークホルダーを一堂に集めて行っていた緑地懇話会を、その利用形態などからセグメント別に行うこととし、その連携にかかる意見交換をきめ細かく行うことができました。

① 町会・自治会等地域の団体

日時：11月22日

参加者：近隣の自治会等5団体

② 公園利用者団体

日時：11月8日

参加者：広町の利用者団体3団体

③ 教育機関

日時：1月22日

参加者：近隣の教育機関8校から14名

2. 自然環境の重要性について、多くの人々、特に次世代を引き継ぐ青少年の環境教育を支援する事業

(1) 祭り

従来から行ってきた4つのお祭り（植樹祭、田植え祭、稲刈り祭、植樹祭）を開催しました。
実績：

5月18日 植樹祭（参加数31名）

6月8日 田植え祭（参加数305名）

10月12日 稲刈り祭（参加数175名）

11月16日 収穫祭（参加数629名）

場所：鎌倉広町緑地

従事者数：延べ179名

(2) 講座・教室

大豆、藍など広町の収穫物を利用した食べ物の料理など、広町の自然を体験できる講座等を開催しました。

実績：

- 4月28日 春の広町で野草クッキング（参加者 11名）
 - 5月18日 豆腐づくり教室（参加者 24名）
 - 5月26日 初夏の広町で野草クッキング①（参加者 17名）
 - 6月23日 初夏の広町で野草クッキング②（参加者 9名）
 - 7月27日 夏の広町で野草クッキング（参加者 9名）
 - 8月25日 藍染教室（参加者 27名）
 - 9月15日 広町の野草でクッキング（昆虫食ビギナーズ）（参加者 7名）
 - 10月19日 秋の広町で野草料理を楽しむ（参加者 13名）
 - 11月12日 コンニャク作り教室（参加者 25名）
 - 2月23日 そば打ち教室（参加者 28名）
 - 3月29日 桜染め教室（参加者 20名）
- 場所：鎌倉広町緑地管理事務所及び腰越学習センター
 従事者数：延べ 51名

(3) 広町緑地ガイド

市民の会会員がガイドとなり、四季折々の広町の自然を案内しました。

実績：

- 4月27日 春の植物観察会（参加者 27名）
- 5月5日 大桐・藤の鑑賞会（参加者 18名）
- 8月10日 夜の昆虫観察会（参加者 29名）
- 8月24日 夏のチョウ観察会（参加者 10名）
- 9月21日 秋の植物観察会（参加者 12名）
- 12月22日 広町さんぽ（紅葉散策）（参加者 12名）
- 2月22日 冬の野鳥観察会（参加者 19名）

場所：鎌倉広町緑地内

従事者数：延べ 27名

(4) 子ども向け体験教室

小学生以下の子どもを対象に広町緑地内でのワークショップや観察などでその自然に触れるプログラムを開催しました。

実績：

- 4月21日 広町ハイキング（参加者 28名うち子ども 10名）
- 4月27日 春の植物観察会（参加者 27名うち子ども 3名）
- 7月21日 水辺の生き物観察会（参加者 64名うち子ども 32名）
- 9月16日 かかしづくり（参加者 34名うち子ども 15名）

- 10月6日 どんぐり遊び（参加者 25 名うち子ども 9 名）
- 10月27日 さといも・さつまいもほり（参加者72名うち子ども32名）
- 12月8日 クリスマスリース作り（参加者 29 名うち子ども 13 名）
- 1月26日 麦踏み・落ち葉かき（参加者 47 名うち子ども 18 名）
- 3月23日 サトイモの植付け（参加者 27 名うち子ども 14 名）

場所：鎌倉広町緑地内

従事者数：延べ61名

3. 広町緑地にかかる広報事業

(1) 広報かまくら等を活用した情報発信

広報かまくらについては、令和6年度には16本の記事が掲載されました。

タウンニュース《鎌倉版》には、広町緑地に関連して、環境教育に関連するニュース他2本が掲載されました。

(2) 広報紙「ひろまちだより」の発行

夏・秋・冬・春と年4回発行し、それぞれ広町で見られるホタル、トンボ、鳥、蝶を特集し、読み物としても楽しめる編集となりました。

(3) ホームページ、SNS の活用

ホームページでは、ボランティア活動やイベントの紹介などを随時行い、その更新回数は年間55回を数えました。

また、広町の貴重な動植物を中心に紹介してきた X や Facebook に加え、新たにイベントや日々の出来事をタイムリーに伝えることのできるインスタグラムを8月に開始しました。インスタグラムのフォロワー数は2025年3月31日現在、275名を数え、投稿数は8月以来約150回以上を数えています。

(4) 新しいパンフレットの作成

広町緑地を紹介する「来て！見て！感じて！鎌倉広町緑地」及び5つの会とかまくら緑の探偵団の活動を紹介する「広町緑地ボランティア募集」の2種類のパンフレットを新たに作成し、管理棟に配架するとともに、外部のイベントでも配布しました。

(5) 外部のイベントへの参加

① きららフェスティバル腰越

会期：10月11日～13日

会場：腰越学習センター

② 開業 55 周年記念 湘南モノレール GO! GO! 春まつり

会期：3月8日

会場：湘南モノレール湘南江の島駅ビル

4. 指定管理業務運営体制の整備・強化

(1) 緑地管理

従来、市民の会直営業務として緑地管理を担当してきたチーム（木登り隊）の体制等を増強して対応した結果、外周部と園内を合わせて、年間で作業日数では延べ273日、作業人員では延べ432名で作業に当たりました。作業内容としては、樹木管理、危険木管理、パトロール及び緑地管理などが多いです。

(2) 要望対応

広町緑地に隣接する住宅地の住民からは年間60件を上回る、広町緑地に関連する様々な要望が寄せられる。要望で最も多いのが広町緑地から越境してきた木枝の処理で、これに草刈り、看板やフェンスなどの広町緑地の施設の修繕などが続いています。

(3) 自販機の設置

ダイドードリンコ製「LOVE the EARTH」ベンダーを12月4日から設置

(販売数量) 12月：96本 1月：205本 2月：120本

(売上等) 報告月ベースで集計(12月～2月で集計)

年間収入 15,702円 (売上59,500円の内 24%) 他 スクールコラボファンド2%

(4) 自己評価（モニタリング実績評価結果）

令和6年度は4月～7月、8月～11月及び12月～3月の3回に分けて自己評価を行い、セグメント別緑地懇話会や環境学習などの新たな取組みについて高い評価を得ました。

(5) アンケートについて

管理棟にアンケート用紙を置き、任意に記入をしていただいている。令和6年度は106人から回答があった。その概要は以下の通りです。

- ① 来園者の男女比 女性 49%、男性 40%、回答なし 11%
- ② 来園者の年代 10歳代 22%、70歳代 17%、10歳未満 15%、50歳代 14% など
- ③ 来園者の住まい 鎌倉市内 49%、鎌倉市外 51%
- ④ 来園のきっかけ 以前から知っていた 63%、知人の紹介 18%、ホームページ 5% など
- ⑤ 『また広町に来たい?』 すごくそう思う 52%、そう思う 33% など

(6) 助成金受託に関する事業

かまくら緑の探偵団助成金（かながわトラストみどり財団）を受け、子ども関連事業として実施しました。

(7) 人材育成

公園管理に必要な技能の習得のために、スタッフは積極的に研鑽を行ない、個別に簿記3級、2級こども環境管理士の資格を取得しました。また、先進的な公園の視察にも赴き、その知識・経験を学びました。

(8) アライグマの駆除

広町緑地内において、アライグマのフィールドサイン（足跡）が多数発見されたため、捕獲檻を2箇所に設置し、2月～3月にかけて5頭のアライグマを捕獲しました。

(9) ボランティア説明会

ボランティアをしたい人のために、月1回、広町の歴史やボランティア活動などについての説明会を開催しました。1年間で24名が参加され、5つの会のいずれかに加わり、継続的に活動を続けている方も居られます。

5. 特定非営利活動法人としての事業等

(1) 「広町からの風」の発行

2024年6月30日第66号 「新しい体制が整いつつあります☆」

2024年9月15日第67号 「稲が出穂そして開花」

2024年12月30日第68号 「収穫祭にあふれた笑顔たち」

2025年3月31日第69号 「この一年のみなさまとの約束の進捗状況」

(2) 収穫物の福祉施設への寄付

一例として、地区社会福祉協議会に収穫物（米5kg）を寄付し、独居高齢者のためのお弁当などに活用されました。

(3) ボランティアの受入

NPO法人藤沢市民活動推進機構の「ワカモノ×NPO インターンシッププログラム」を利用して、大学生1名が7月～2月までの8か月間、忙しい学校生活の合間を縫って約100時間、広町で様々なボランティア活動（収穫祭のワークショップなど）を体験しました。

また、かまくら緑の探偵団の活動に関して大学生1名の受け入れ、大船高校ボランティア部の生徒の受け入れを行いました。

(4) SOMPO ホールディングスからの寄付

SOMPO ホールディングス(株)から、同社の「SOMPO ちきゅう倶楽部社会貢献ファンド」による寄付金5万円をいただきました。（同ファンドは、社員有志の毎月の給与から一定額控除した寄附金で、支援対象は社員の推薦により決まります。）

以上